様式４

令和６年度第４回
富士見市社会教育委員会議
議事録

<table>
<tr><td>日　　時</td><td colspan="6">令和６年９月３日（火）　　開会　午後７時００分
閉会　午後９時００分</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td colspan="6">富士見市立中央図書館　２階　視聴覚ホール</td></tr>
<tr><td rowspan="5">出 席
者</td><td rowspan="4">委　　員</td><td>本田議長</td><td>渡邉副議長□</td><td>内海委員</td><td>秋元委員</td><td>小栗委員</td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>関野委員</td><td>戸田委員</td><td>八木橋委員</td><td>深瀬委員</td><td></td></tr>
<tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>事 務 局</td><td colspan="5">生涯学習課　主任</td></tr>
<tr><td>公 開 ・
非 公 開</td><td colspan="6">公開（傍聴者０人）</td></tr>
<tr><td>議　　題</td><td colspan="6">１　あいさつ
２　協議事項
・第３４期のテーマ決定に向けて
３　その他
・各会議への参加報告</td></tr>
</table>

議　事　内　容
1　あいさつ 2　協議事項 ・第３４期のテーマ決定に向けて 【議　長】　生涯学習ガイドを活用するために、まずは知ってもらうことが必要。そのためにはどのような取り組みが必要か、どのような対象を設定するか、どのような策を講じると良いか。またその理由について、事前課題として検討してもらった。今日はそれぞれの意見を発表してもらい、方向性を決めていきたい。 【委　員】　私はホームページ等にアクセスできない人を対象とすることを考えた。生涯学習ガイドがどのようなものか見たいと思い公民館に行ったが、職員がいない日で、どこにあるか分からない状態だった。図書館で探したところ、令和５年度版を見つけた。３０ページほどの冊子だった。情報を網羅的に集めたものだと思うが、足りない部分があるのではないかと思った。図書館の同じ棚に平成２６年度版生涯学習ガイドブックを見つけた。こちらは１２８ページあり、基本的な構成は同じだが、各公民館の事業も掲載されており、人材バンクについても細かく掲載されている。市内の社会教育施設についても概要が載せられている。富士見市の社会教育の全体像が分かりやすいと思った。現在のものは全体像が分かりにくい印象がある。冊子体の良さを改めて感じた。紙媒体に力を入れる時代ではないかもしれないが、アナログにはアナログのよさがある。デジタルに利便性を見出していない人もいるので、そういう人のことも考慮した方がいいのではないか。 【議　長】　ガイドの掲載内容について、平成２６年度版を最後に今のスタイルになっているようだが、理由は何かあるのか。 【事務局】　推測になるが、当時の担当職員が掲載内容を選定したのではないか。 【議　長】　現行のものは詳細を省いている部分もある。そこを省かず、ホームページを閲覧できない人のためにも冊子体は必要で、内容も充実させた方が良いのではないか、という意見だった。 【委　員】　ホームページへの掲載方法について、それぞれは分かりやすくまとめてあると思う。ただ、毎回ＰＤＦファイルを開く必要があり、そこは面倒に感じた。また公共施設に閲覧用と配布用を置いているとのことだが、配布数が少ないのではないかと感じた。私は社会福祉協議会でもらってきたが、１部しか残っていなかった。また、やはり多くの市民に手に取ってもらうことが必要だと思う。公共施設に配布しているとのことだが、小学校や中学校、保育園や幼稚園、また医療関係や金融機関にも置いてあると、待ち時間に手に取ってもらえるかもしれない。子育てに関する情報については、親御さんたちが見てくれるかもしれない。また広く目に留まるということを考えると、

市役所前にある電光掲示板を活用することも考えられるのではないか。また公民館や交流センター内に掲示板はあるものの、その日の活動が書いてあるのみ。それ以外で、例えば何曜日にどこのサークルが活動しているかなど、一目で分かるものがあると、分かりやすくて良いのではないか。私も交流センターに行った時に、自分のサークルの分は見るが、それ以外の活動を見る機会はあまりない。興味があれば覗いてみるなど行動につながる。また市役所内の課の活用をもっとしてもいいのではないか。例えば、高齢者の方は市民課や高齢者福祉課、税務課などに来庁されることが多いと思う。そこで、高齢者の方向けの情報をお渡しできるといいのではないか。同じように、子育て中の方が訪れるような課には、子育てに関連する情報を説明して、知ってもらう仕掛けも必要ではないか。出前講座ももっとみんなに知ってもらって、有効活用できたらと思う。子ども未来応援センターの有効活用も重要ではないか。

【議　長】　既存の取り組みであるホームページへの掲載や冊子の配布、市役所内での共有をもっとうまくできないか、という発想で考えていただいた。また既存の手法に加えて新しい広報手段や媒体を考えても良いのではないか、というご意見だった。

【委　員】　生涯学習ガイドという名前は親しみづらいと思った。ちょっと読んでみよう、と思わせられるように、中にどんなことが書いてあるのか、楽しく表現できないか。また、情報を押し付けるのではなく、情報が必要だと思った時に、必要な情報にたどり着ける道筋として生涯学習ガイドを活用できないか。対象を考えた時に、公民館にあまり来ない方々に情報を届ける手段が必要。情報にたどり着くためのルートを提供することが大事ではないか。例えば３歳児検診など誰もが参加する場で、興味を持ってもらえそうな情報を出す。また全ての情報を提示するのではなく、詳細な情報を知りたい方にはホームページへと誘導する。様々なチラシやお知らせが配布されるので、情報が多すぎると人によっては煩わしく感じてしまう。必要だと感じた時に使ってもらえるように、例えば二次元コードを活用して生涯学習ガイドなどにたどり着けるような、楽しい情報がここに集まっていると感じてもらえるような案内を作成しておく。必要になった時に簡単にアクセスできるように、最初の１歩を支える工夫ができないか。また市では幼児向け、高齢者向け、様々な事業や講座を開催している。そういった場には、参加者はもちろん、講座等なにかを企画しようという人、課題を抱えている人、情報を求めている人、様々な人が集まる。役に立つ情報がありますよ、と二次元コードで誘導できれば活用してもらえる。必要な時に辿り着ける道筋を整備できると、有効ではないか。

【議　長】　対象別に、興味を持ってもらえるような、楽しそうと思ってもらえるような案内を渡す。必要になった時に使えるような入り口や導線を作っておくという意見だった。

【委　員】　今の人は自分で調べて自分から情報を取りにいく、という人が多いと思う。だからこそ必要な人にちゃんと届くように導線を作る。情報を必要としていない人にとっては重荷になるかもしれない。必要な人がアクセスできるような道を作れたらいいのではないか。

【議　長】　対象ごとに興味を持ってもらえるような入口の仕掛けが大事なのかもしれない。楽しそうで、情報が多すぎないこと。こういう人にはこういう場所で渡せる、など、対象ごとに色々なパターンが考えられそうだ。

【委　員】　お金をかけない方法を考えるのであれば、一定の年齢になると必ず送られる通知等の発送機会を活用する方法が考えられる。例えば４０歳以上になると、健康増進センターから健診のチラシが送られてくる。その中に、４０代の方に向けた講座等の案内が入っていると目に留めてもらえるのではないか。他にも二十歳式で何か案内等を配布できれば、若い層にも富士見市の生涯学習、社会教育活動を知ってもらえる。健康増進センターが通知等を発送する機会はとても有効。年代や男女を分けてお知らせを送る。その中に、その対象に向けた情報が載っているチラシ等が入っていると、参考にしてもらえるのではないか。少しでも記憶に残れば、困った時や出産など、なにかのタイミングで思い出してもらえる。児童館のホームページを見てもらいたいと考え、領収書に二次元コードを載せたところ、反応が良かった。領収書はすぐには捨てないし、サイズも小さいので、そのまま持っていてくれる。そういう、持っていることが負担にならないはがきサイズ以下のものを届けられると良いのではないだろうか。

【委　員】　わくわくするような広報を繰り返し行うことが大事だと感じた。例えば公共施設にポスターが貼ってあって、そこに二次元コードがあり、読み込むと市のイベントカレンダーにたどり着く。そういう形が良いのではないか。今の生涯学習ガイドは少し固いと感じた。事業という言葉でまとめられているが、事業と聞くと「やらされる感」「仕事させられる感」がある。また事業の中にも「子育て支援」がいくつもあって、よく読むと施設が違うということがわかる。タイトルに子育て支援とだけ書いてあっても分かりにくい。構成など少し見直す余地があるのではないか。また各事業についてホームページ上に記事が作成されると思う。そこに誘導する二次元コードなどが載っていると良いのではないか。先程平成２６年度版の生涯学習ガイドブックを回覧してもらった。現行のものと比べると市民の活動内容について詳細に掲載されており、良いと思った。市民の中には自分で情報発信している人もいる。そういう市民発信の情報にも辿り着けるように、二次元コードなどを活用して生涯学習ガイドやイベントカレンダーなどに載せられると良いのではないか。また講座やイベントについて、問合せ先が施設だとハードルが高い。それよりも二次元コードなどから主催者に直接コンタクトを取れた方が時代に合っている。また市のホームページにあるイベントカレンダー

はとても良い機能だと思う。積極的に二次元コードを活用して利用してもらえるよう、繰り返し広報した方が良い。またＰＤＦだと特にスマートフォンからは見づらい。難しいとは思うが、ＰＤＦではなく、ウェブサイトを作成するなど、デジタルに特化した形にした方がいいのではないか。前回の会議で委員から狭山市がすごいと伺い、調べてみたところ「さやまルシェ」というウェブサイトがあった。市が関わっていない市民主催のイベントもあると思うが、それは生涯学習ガイドには載っていないし、富士見市のイベントカレンダーにも載っていない。「さやまルシェ」を見ると市民主催のイベント等も掲載できるようになっており、とても良いと感じた。これは狭山市の自治文化課が担当している。富士見市だと協働推進課や文化・スポーツ振興課が相当するのかと思う。社会教育の範囲外になるだろうし、難易度も高いとは思うが、そこまでできたら凄いことだと思う。

【議　長】　生涯学習ガイドの作りについての意見が出た。名称や構成を分かりやすく親しみやすいものにすること。また生涯学習ガイドからホームページに誘導したり、イベント等の主催者と直接連絡が取れるようにしたりすることで、さらに情報の広がりを持たせること。他にも市ホームページのイベントカレンダーや生涯学習ガイドの露出を増やすこと、デジタルの良さを活用すること等の意見もあった。また市が関わっていないイベントや講座についても情報を掲載できないか、というもの。

【委　員】　情報発信の媒体がいくつもあることには問題もある。情報を集約し、市のイベントカレンダーさえ見れば、生涯学習ガイドさえ見れば、という、網羅的な作りにできると良いのではないか。

【委　員】　公平性が意識されているのか、行政においては特定の層を対象にした情報発信がやりにくいのではないか。情報を発信するタイミングが、受け手のタイミングと合っていないと感じる。誰に、ということをもっと意識できるとよいのではないか。例えば富士見市に引っ越してきた人は必ず市役所に来る。そこでゴミの案内などと一緒に情報提供すれば、目を通してもらえるのではないか。またイベントに参加する人は、基本的に地域の活動に対して関心が高い人たち。その人たちに向けて情報を発信できればいいのではないか。地域のフォーラムなどがあると思うが、そのような場でも情報を発信してもらえるといいのではないか。イベントを主催している人やインフルエンサーなど、発信力のある市民の方にも発信してもらえると、より情報が届くのではないか。また、地元企業はステークホルダーとして重要だと考えている。地元企業と連携して、その企業に関係する人たちにも案内してもらえると、少なくとも従業員の方には情報が届く。また従業員の方にとっても、働いている地域の情報を知ることは、良い循環につながるのではないか。また他の委員からもお話があったが、医療機関などは待ち時間も長いので、そこに生涯学習ガイドを配布できると、読んでもらえる可能性もあるのではない

か。最後に、これも何人かの委員からお話があったが、子育てをされている方々にとっては、子育てに関する情報はいくらあってもいいと思う。教育機関と連携して情報を発信していけるといいのではないだろうか。ただ、そういう場として学校が挙がりがちだが、学校関係者に負担にならないよう十分に配慮する必要がある。

【委　員】　学校が地域の中心なのであれば、そういった情報が目に触れる機会はあったほうがいいと思っている。

【議　長】　タイミングの話が出た。何でもない時に漫然と配布するのではなく、必要な時に届けるという姿勢が必要なのかもしれない。タイミングやチャンスを捉えるという発想。また特定の対象者に向けた情報発信、広報ルート拡大に関わる意見が出た。

【委　員】　興味を持ってもらうためには、まずは目にすること、興味を持つことが必要だと考えている。そもそも、生涯学習課や社会教育課が何をしている課なのか、よく分かっていない人が多いと思う。生涯学習ガイドと言われても、よく分からないものは手に取らない。なので、横断幕やポスター、チラシといったものに、二次元コードなどを付けて、生涯学習とはなにか、簡単な紹介をしていく。そこで興味を持ってもらえたら、また更に詳しい情報源を案内する。いきなり細かすぎる案内をしても読んでもらえない。段階を踏んだ方がいいのではないだろうか。また次代を担うのは子どもたち。小中学生はタブレットを一人一台持っている。授業の中でタブレットを使って、富士見市のホームページなどを検索してもらえないか。その子たちが大きくなった時に、少しでも頭に残っていれば、何かの時に調べてみようと思ってもらえるかもしれない。また他の市町村に出たとしても、自分で検索しようと思うのではないか。今の子どもたちに向けた取り組みもあってもいいのではないだろうか。

【議　長】　子ども達たちに向けて、授業の中で扱ってもらうのはとても良い考えだと感じた。私は講じる策を考える前提として、対象の整理が必要だと考え、別紙で資料を作成した。事務局から配布してもらっているので確認してほしい。情報の受け手側を中心に作成した。対象者を整理する軸としていくつか考えられるが、まずはアナログかデジタルか、という点は常に意識したほうがいいのではないかと思う。デジタルの活用を考えがちだが、デジタルを便利と感じない人もいるということは常に念頭に置いた方が良い。それから、月並みではあるが年代も軸の１つとして考えられる。コミュニティとの関わり方の度合いも軸の１つ。あまり人と関わらないという人、近所づきあい程度という人、自分自身は関わりはないが、子どもを通じてつながりがある人、積極的に参加している人。また情報との接点も考えた。丹念に情報を見る人、自ら情報収集する人、まったく見ない人。また興味や行動のレベルも考えられる。一番意識するべきは、興味があったら参加するが、そこまでに至らない人。また、既存の取り組みについて、どのように評価するか。主観ではあるが、まずホームページへの掲載について。これはそもそもホームページに掲載され

ていることが周知されているのか。また見つけやすいのか。見やすいのか。使いやすいのか。それぞれに問題がありそうに感じる。公共施設へ閲覧用と配布用を設置しているとのことだが、まず見に来ないのではないか。配布用といっても、はたしてどこまで配布されているのか。また市役所内での共有について、共有した後の活用や広がりはどうなっているのか。このように考えると。既存の３つの取り組みは活かしきれていないのではないか。これらを踏まえて、講じるべき策を対象ごとに検討した。広報や回覧板を見ず、アナログ媒体を使う人には、市の施設や掲示板へ掲載したり、団体などに呼び掛けて情報を広めてもらったりが考えられる。またイベント開催時に広報するという方法も考えられる。次に、広報等も見ず、デジタル媒体を使う人。各団体にＳＮＳでの情報発信を依頼したり、インフルエンサーに拡散してもらったり、お金をかけて広告宣伝する方法が考えられる。次に、情報は見るが生涯学習ガイドを知らない人。これは市からの情報発信に生涯学習ガイドへの導線を付けるのが良いのではないか。ハッシュタグや二次元コード、ＵＲＬなどを活用するのが効果的かと思う。ただ、アナログ派の人に対しては、生涯学習ガイドの存在を知ってもらったとして、公共施設まで見に来てもらうのか。そこは検討する必要がある。最後に、生涯学習ガイドを見ても行動に結びつかない人。興味のある情報が見つからないのであれば、掲載情報を増やしたり、分類や整理方法を見直したり、構成を改善するなどの方法が考えられる。またナビゲーターを配置することも考えられる。興味があるものを見つけても行動しない人については、情報の訴求力が足りないということだと思うので、各団体の紹介動画や口コミを生涯学習ガイドに載せる、ナビゲーターが相談に乗る、橋渡しをするなどの策が考えられる。ハードルを下げ一歩踏み出す勇気を持たせることが必要。生涯学習ガイドを知ってもらうことではなくて、生涯学習ガイドを見て、行動を起こしてもらうことが目的。その点においてはガイドの構成など作りの見直しももちろんだが、そこから行動につなげるところまで考える必要がある。さて、各委員から色々と意見をいただいた。なお事務局に分類案を考えてもらっている。

【事務局】　記載されている内容から分類させてもらった。「ガイド以外？」と書いたものについては、ガイドそのものに手を加える訳ではなく、ガイド以外の部分に力を入れる意見かと解釈したため、そのように記載した。あくまで事務局による分類案なので、意図と違う等あれば教えていただきたい。

【委　員】　１４番と１６番に「ガイド以外？」とあるが、これは１５番と１７番の前提として必要だというもの。ガイド以外ではない。ガイドを作る上で必要な取り組みを書いた。

【事務局】　承知した。また１１番についても、健康に関する講座のチラシを作って配布するものかと解釈していたが、お話を伺って、広報手段の拡大に関する意見だったかと思う。修正したい。

【議　長】　「ガイド以外？」とされた意見も概ね広めるための手段について言及したものかと思う。内容の見直し、広報手段の見直し、それからその後をどうするか、という分類ができると思う。生涯学習ガイドを知ってもらって終わりではない。実現可能性の高いものとしては内容の改善、広報手段の改善になるか。

【委　員】　生涯学習ガイドという名前をどうするか。副題を付けるなどはすぐできるし、すぐ対応した方がいい。

【議　長】　とっつきやすいか、わくわくするか、という点は意見が出た。また最初から情報が多すぎないこと、段階を踏んで情報にたどりつくことといった意見もあった。

【事務局】　実現可能性は行政側の問題になるので、社会教育委員会議からの提言としては、ある程度の精査は必要だと思うが、気にしすぎる必要もないかと思う。

【議　長】　では、各委員より出してもらった意見を整理する。追加意見等あれば出してもらえれば。

【委　員】　１６番について、サークルや団体に入っている方には様々な方がいる。デジタルに強い方は情報発信もできると思うが、そうでない方もいる。誰かがやり方を教える必要があり、例えば行政で事業として教室を開催するなど、そういうところまで含めて考えられるとより良いのではないか。生涯学習課だけが頑張るのではなくて、どうやったら楽により良くできるか。

【議　長】　１つの場所で完結はしない。詳しくはこちら、ご連絡はこちらなど、誘導する先がある。そこを充実させるためにも、サポート体制は必要になる。生涯学習ガイドをより広めて、人々の行動につなげるための策を考えると、それに付随して必要なことが出てくる。あまりに限定的な対象者を想定する必要はないと思うが、それでも対象を広くとって周知しても届かない。転入してきた方、出産や子育てのタイミングにある方など、より情報を必要としているところに必要とされる情報を届けることは大切。露出を高めることも大事ではあるが、それだけで訴求するわけではない。ピンポイントな発信の数を増やすことができるとよいのかもしれない。また、口コミの強さを考えるに、やはり人の力は大きい。情報を提供してくれる人が、信頼できる人であることは重要なポイント。ナビゲートしてくれる人が多くいることは大事なことではないか。

【委　員】　公民館の職員はそれを担ってくれている。デジタル化も大事だが、人も大事にしていきたい。

【委　員】　公民館にそういうナビゲートしてくれる人がいることは、あまり知られていない。こういう機能があることをうまく宣伝できれば。

【委　員】　公民館事業には色々なものがあって、人がいない、後継者がいない、人を増やしたいというサークルもある、公民館職員はそれも把握している。把握しているからサークルを宣伝する動画を作るためのノウハウを学ぶ講座も開催できる。公民館とうまく連携していけるといいのではないか。

【委　員】　入間地区社会教育協議会に出席している。他市町の委員からは富士見市の社会教育はある程度評価されていると感じる。せっかく評価されているのだから、例えば富士見市にはこういうのがある、というシンボルのようなものができるといいなと思う。生涯学習ガイドもその一つになりえるのではないか。そう考えると、生涯学習ガイドを充実させることは大事だなと改めて感じている。社会教育のレベルアップに通じるのではないかと期待している。

【委　員】　社会教育というと、市がなにかやってくれるのではなく、できる人を市が育ててくれるというイメージ。受け身な人ではなく、なにかやりたい、という人がたくさんいて、その人たちがやりたいことをできるようにサポートしてくれる。それが行政なのではないか。公民館活動を見ていても、人を育てていると感じる。そのおかげで、それぞれの人たちが、主体的に自分たちの地域をよくしようと活動できる。そこが評価されているのではないか。やってあげる、やってもらうのではなく、自分たちで企画することが楽しいという感覚は教育の賜物。人を育てる場所が公民館なのではないかと感じる。

【委　員】　生涯学習ガイドについて、他市町村でも作成しているのか。

【事務局】　全市的にあるかは把握していないが、他自治体のものを参考に改訂したことがあるので、作成している自治体はある。ただ近隣自治体や埼玉県内の状況は把握していない。

【委　員】　これは毎年作成しているのか。

【事務局】　年度ごとに内容が変わるものもあるので、毎年更新している。

【委　員】　これは作らなくてはいけないものなのか。

【事務局】　作成の義務があるわけではない。各自治体で判断の上作成しているもの。

【議　長】　今回各委員に出してもらった意見を、内容の見直し、広報手段の見直し、それから新しい策とまとめ、また次回の会議で精査していくこととする。

3　その他

・各会議への参加報告　特になし